

- ・ 生徒個々の実態に応じた実践的・体験的な活動の工夫
- ・ 自己理解を深め、将来を見据えた学習指導の工夫

# 生活単元学習学習指導案

学 級 生活単元グループ(男子4名女子2名計6名)

場 所 総合学級3組教室(3年校舎1階)

授業者 教諭 T1 新町義樹, T2 鮫島誠子

## 1 単 元 「自分のことを知ってもらおう」

### 2 単元について

本校の特別支援学級に在籍する3年生は9人で、知的障害特別支援学級の生徒が5名、自閉症・情緒障害特別支援学級が4名である。知的障害特別支援学級の生徒は、交流学級での技能教科や道徳、短学活などの授業に参加し、友だちと何でも話することができる。しかし、自閉症・情緒障害特別支援学級の生徒は、1人は交流学級の授業に参加できているが、2人は特別支援学級の中から出ることが困難で、学級活動や総合的な学習といった授業でその場にいることはできても、友だちや集団との関わりを上手にもつことが難しい。また、学習面での課題はそれぞれあるが、生活面でも様々な経験が不足していたり、場や状況に応じた態度がとれず、周りの人とうまく接することができなかつたりするなどの課題があるので、学校生活全般や生活単元学習の時間の活動で、生活経験を豊かにすること、コミュニケーション能力を高めることをねらいにしながら活動してきている。

本校の特別支援学級では、特別支援学校との交流会に参加したり、伊敷地区小・中学校特別支援学級合同野外学習に参加したりと、他校の生徒と関わる行事が組まれている。行事によっては、事前学習で名刺を作成して対面式で名刺交換をして自己紹介をするものもあり、限られた時間の中で楽しく活動をする。名刺の中には、学校名や名前の他に、自分の好きなものや趣味などを記載し、少しでも会話の手助けになるような工夫をすることで、交流を深めていくようにする。しかし、名刺を交換するだけで満足してしまい、その後会話が続き、他校の生徒との交流が深まらないこともある。

指導に当たって、まずは、他校の生徒が関わりやすいようにするために笑顔トレーニングを実施する。鏡を見ながら大きく口を開けて話すなどの練習をする。そして、自分のことを知ってもらおう発表では、自己紹介の項目の後に、自分の好きなこと等のテーマを与えて、みんなの前で発表する。発表をみんなで見ると、良い点に注目するようにして感想を聞き、指摘された点は、反省をし、次に生かすようにする。

これらの学習を通して、自分のことを相手に知ってもらい、初めての人と接するときのマナーについて気をつけることができ、更に自分の考えや思いを伝える喜びを味わうことができると考える。また、友達の発表良い点を必ず述べる課題を与えることで、相手の考えや思いを注意して言葉を聞くスキルが身につくと考える。

### 3 単元の目標

- (1) 今後の行事に対して、意欲を高めることができる。
- (2) 自分自信のことを知ってもらうために、大きく明瞭な発声で話すことができる。
- (3) 友だちの発表を見て、良いところを見つけることができる。
- (4) 自分のことを振り返り、名刺や自己紹介カードを作成することができる。

#### 4 単元の指導計画（全 10 時間）

次	学習指導内容	学習指導目標	時数
1	3年生での行事を知ろう	① 1年間の行事について知る。 ② それぞれの行事の内容を知る。 ③ 他の学校の生徒と交流がある行事について知る。 ④ ビデオ等で、活動の様子を確認することができる。	2
2 (本時)	自分のことを知ってもらおう	⑤ 自分自身のことを振り返り、自己紹介の項目に従って発表することができる。 ⑥ テーマに沿って発表することができる。 ⑦ 発表している友だちを見て、良いところを見つけることができる。 ⑧ 自己紹介の項目に従って、名刺や自己紹介カードを作成することができる。	6
3	行事に向けて練習をしよう	⑨ 各行事に向けて練習することができる。	1
4	反省をしよう	⑩ これまでの反省をすることができる。	1

#### 5 単元における評価基準

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身ことを振り返ってまとめて話したり、それを相手に知ってもらったりすることができる。</li> <li>・ 交流会等の行事を考えて、自己紹介に慣れることができる。</li> <li>・ 発表し合うことで、それぞれの良いところを見つけ自分の発表に生かすことができる。</li> </ul>
--

#### 6 生徒の実態

	A (3年生・男子)	B (3年生・女子)	C (3年生・男子)
単元の目標	相手の表情を見て、自分自身のことをまとめて話することができる	相手に自信をもって、自分自身のことを話すことができる	自己紹介の項目を見ながら、相手に自分自身のことを話すことができる
教育的ニーズ	○ 周囲の状況を考えて行動できるようになること ○ 相手の気持ちを考えられるようになること	○ 集団の中で自己主張することができるようになること ○ 自分の行動に自信がもてるようになること	○ 状況に応じて、落ち着いて行動することができるようになること ○ 交流学級の生徒と自然な交流ができるようになること
発表に関する様子	特別支援学級の中では、堂々とはっきりした声で発表することができる。しかし、交流学級では、積極的な発言もなく、声も小さくなってしまう。	小さなメモなどを読みながら、はっきりした声で発表することができる。特別支援学校との交流会などで、進行を務めることができ、自信をもって取り組むことができる。	はじめは嫌がるが、慣れると一生懸命に発表することができる。一度やると決めたことは、最後まで一生懸命に練習し、本番に備えることができる。
コミュニケーション	自分の気持ちばかりを話し、相手のことを考えることが難しい。	状況に応じて、自分の気持ちを上手にまとめて相手に伝えることができる。	話すことは好きであるが、自分の考えを相手に正しく伝えることが難しい。
人間関係の形成	同年齢の友達との会話はできるが、相手の表情や素振りを見て、感情を理解することは難しい。	集団の中では、自分から積極的に人間関係を築くことは難しい。	自分から積極的に人間関係を築くことは難しい。また、集団に自ら積極的に入っていくことは難しい。
	D (3年生・男子)	E (3年生・女子)	F (3年生・男子)
単元の目標	相手に自信をもって、自分自身のことを堂々と話すことができる	相手との距離を保って、相手を見ながら、自信をもって話すことができる	自己紹介の項目を見て、相手を見ながら自分自身のことを話すことができる
教育的ニーズ	○ 自分の発言や行動に自信がもてるようになること ○ 交流学級の生徒と自分から積極的に交流できるようになること	○ 集中して与えられた学習や活動に取り組むこと ○ 相手の気持ちを考えて、距離をもって人と接することができるようになること	○ 自分の考えや思いをまとめられるようになること ○ 相手の気持ちを考えられるようになること
発表に関する様子	積極的な発表は、あまり見られない。授業で、できていることを発表するように促すと、発表することはできるが、自信がないような小さな声でしてしまう。	自分のわかることは、自信をもって積極的に発表することができる。	人前で話すことが苦手で、発表となると無言になってしまうことが多い。
コミュニケーション	会話が少なく、自分から話しかけることは難しい。話しかけられたことへの応答はできる。	話すことは好きであるが、自分の気持ちばかりを話して、相手のことを考えることが難しく、反面、交流学級では、積極的な会話をすることが少ない。	自分の気持ちをだまかに伝えることはできるが、自信がもてない時は、うまく話が伝わらないこともある。
人間関係の形成	同年齢の友達と心を打ち解けるような人間関係を築くことが難しい	自分から関わられる友達に限られる。コミュニケーション能力を見ても、周囲との社会生活年齢の開きが大きく交流学級でうまく関わっていない。	目上の人や大勢の前では、極度に緊張してしまう。自分に自信がもてず交流学級では積極的に人と関わりをもつことが難しい。

## 7 本時の実際 (6/10)

(1) 単元「自分のことを知ってもらおう」

(2) 目標

ア 全体目標

- ① 自分自身のことを振り返り、自己紹介の項目に従って発表することができる。
- ② テーマに沿って発表することができる。
- ③ 発表している友だちを見て、良いところを見つけることができる。

イ 個人目標

A (3年生・男子)	相手の表情を見ながら、話すことができる。
B (3年生・女子)	笑顔で、堂々とした態度で話すことができる。
C (3年生・男子)	話す言葉をまとめて、簡潔に話すことができる。
D (3年生・男子)	笑顔で、相手の表情を見ながら話すことができる。
E (3年生・女子)	相手と一定の距離を保ちながら、話すことができる。
F (3年生・男子)	話す言葉をまとめて、簡潔に笑顔で話すことができる。

(3) 授業設計の工夫

ア 生徒個々の実態に応じた実践的・体験的な活動の工夫

特別支援学校との交流会や地区の野外学習での交流場面を想定して、まず、自由な雰囲気に関われるような場を設定する。普段慣れ親しんでいる生徒同士ではあるが、あえて自己紹介することは、恥ずかしくて上手にできないことが予想される。そこで、自己紹介する場を家庭と連携して、親戚の叔父、叔母などに行ってみたり、学校内の他学年に所属する先生に行ってみたりするなど、繰り返し設定することにより、その状況に慣れるようにして、実際の場面でも自信をもって他校の生徒と関われることができるようにする。生徒によっては、自信がもてずに声が小さくなってしまいうことも予想されるが、ワークシートや発表用ボードを準備し、相手が分かるように話す要点をまとめ言葉を少なくし、大きな声ではっきりと話せるように練習を繰り返すように工夫する。なお、T1は、全体を見て、指示・支援をし、T2は、支援が必要な生徒に個別について、支援をする。

イ 自己理解を深め、将来を見据えた学習指導の工夫

自分を知ってもらうためには、まずは、自分をよく知ることから始まる。一般的な自己紹介の項目に従って、まずは、自分自身をよく知り、その上で自分のことを知ってもらうように話ができるようにしたい。また、自己紹介の項目だけでなく、「性格」や「自分が今、熱中していること」などといったテーマを与えることにより、いろいろな面から自分自身を振り返られるように工夫する。特に、3年生は、高校進学という未来が直近に迫っており、この生活単元グループの生徒の中にも、特別支援学校ではな

### 自己紹介の項目

- 1 自分の名前
- 2 所属(学校名, ○年○組)
- 3 趣味・特技
- 4 「テーマ(○○について)」
- 5 「よろしくお願いします」の言葉

く、普通高校を受験する生徒もいる。その受験に際して、面接試験があることも踏まえ、テーマに関しては、これまでの面接の質問項目についても取り入れるようにし、面接での自己アピールをする場面を想定して発表を行うように工夫する。更に、これまで取り組んできた「身なり点検」や笑顔トレーニングなども引き続き取り入れ、相手に好印象をもってもらえるような指導を工夫する。

(4) 本時の展開

① 個人目標

A(3年生・男子)	相手の表情を見ながら、話すことができる。
B(3年生・女子)	笑顔で、堂々とした態度で話すことができる。
C(3年生・男子)	話し言葉をまとめて、簡潔に話すことができる。

② 展開

過程(分)	主な学習活動	指導上の留意点および支援の手だて	◎ 評価 ※ 授業設計の工夫
導入 10分	1 はじまりのあいさつをする 2 本日の学習について知る 3 「笑顔トレーニング」をする。 ※ それぞれ鏡を準備し、トレーニング項目に従って、トレーニングする。 4 本時の学習課題を設定する。 自分のことを上手に話して、知ってもらおう 5 個別の目標を確認する。	A(3年生・男子) ・ 姿勢を正して座り、話し手の目を見るように言葉掛けをする。 ・ 本時の学習を知ること、学習に対し意欲がもつことができるようにする。 ・ 笑顔の参考のために、名刺の写真を見せる。 ◎ 笑顔が作れている時は称賛をする。 ・ 本時の学習課題をワークシートに記入するようにする。	B(3年生・女子) ・ 目や口の動きに注目するように言葉掛けをする。 ・ 鏡を持たせ、することを確認するようにする。 C(3年生・男子) ・ 前回の反省をT2と確認するようにし、ワークシートに自分の目標を書き込むようにする。
展開 30分	6 本日のテーマを知り、話すことをまとめ。 ・ 自己紹介カードの項目とテーマを話すことを確認する。 7 自己紹介及びテーマについて話す練習をする。 ※ それぞれ鏡を準備し、トレーニング項目に従って、トレーニングする。 8 ミニ発表会をする。 (1) 自分の発表をみんなに見てもらおう。 (2) 友だちの発表を見て、良いところを発表する。 ・ ランダムに順番を決め、一人ずつ前に出て発表をする。	※ ワークシートや発表用ボードを活用して、話す内容をまとめるようにする。 ・ 話すことを教師が聞き出し、相談しながらまとめる(T1)。 ・ 話す内容をワークシートに記入するようにする。(T1)。 ※ 恥ずかしいと感じる生徒は、仕切りを用意し、その中で行う。 ・ 自分で練習する場所を決めて、練習をするようにする。 ・ よくできている時は、称賛をし、自信がもてるようにする。 ・ 練習をやめ、席に戻るよう指示する。 ◎ 発表が終わることに称賛をする。 ・ 緊張しないような言葉掛けをする。 ・ 笑顔になるような言葉掛けをする。 ・ 友だちが発表するときは、黙って注目するように言葉掛けをする。	・ 話すことを教師が聞き出し、相談しながらまとめる(T2)。 ・ 話す内容をワークシートに記入するようにする。 ・ 練習する場所を指示し、何回練習するかを決めてから練習するようにする。 ・ 声が小さい時には、声掛けし、自信をもつてできるようにする。 ・ 他の人の発表を参考に、落ち着いて発表するように言葉掛けをする。 ・ 友だちが発表するときは、どこがよくできているかを探しながら聞くように言葉掛けをする。
終末 10分	9 本日の活動を動画で振り返る。 ・ ノートに指摘された点や自分の反省を記入し、振り返る。 10 次回の授業を確認する。 11 終わりのあいさつをする。	※ 自分の発表だけでなく、友達の発表も振り返り、評価をするようにする。 ・ 今回できなかったところは自分で気づけている時は称賛をし、次回は直して臨むことができるよう言葉掛けをする。	・ 今回できなかったところをT2と確認し、次回は直して臨むことができるようにする。

(4) 本時の展開

① 個人目標

D(3年生・男子)	笑顔で、相手の表情を見ながら話すことができる。
E(3年生・女子)	相手と一定の距離を保ちながら、話すことができる。
F(3年生・男子)	話す言葉をまとめて、簡潔に笑顔で話すことができる。

② 展開

過程(分)	主な学習活動	指導上の留意点および支援の手だて	◎ 評価 ※ 授業設計の工夫
導入 10分	1 はじまりのあいさつをする 2 本日の学習について知る 3 「笑顔トレーニング」をする。 ※ それぞれ鏡を準備し、トレーニング項目に従って、トレーニングする。 4 本時の学習課題を設定する。 自分の上を上手に話して、知ってもらおう 5 個別の目標を確認する。	D(3年生・男子) E(3年生・女子)	F(3年生・男子)
展開 30分	6 本日のテーマを知り、話すことをまとめる。 ・ 自己紹介カードの項目とテーマを話すことを確認する。 7 自己紹介及びテーマについて話す練習をする。 ※ それぞれ鏡を準備し、トレーニング項目に従って、トレーニングする。 8 ミニ発表会をする。 (1) 自分の発表をみんなに見てもらおう。 (2) 友だちの発表を見て、良いところを発表する。 ・ ランダムに順番を決め、一人ずつ前に出て発表をする。	◎ 評価 ※ 授業設計の工夫 ・ 姿勢を正して座り、話し手の目を見るように言葉掛けをする。 ・ 本時の学習を知ること、学習に対し意欲がもつことができるようにする。 ・ 目や口の動きに注目するように言葉掛けをする。 ◎ 笑顔が作れている時は称賛をする。 ・ 本時の学習課題をワークシートに記入するようにする。 ・ 前回の反省を踏まえて、自分で目標を決めるように言葉掛けをする。 ※ ワークシートや発表用ボードを活用して、話す内容をまとめるようにする。 ・ 話すことをT2が聞き出し、相談しながらまとめるようにする。 ・ 書き出したことを取捨選択し、話すことをまとめるようにする。 ※ 恥ずかしいと感じる生徒は、仕切りを用意し、その中で行う。 ・ 自分で練習する場所を決めて、練習をするようにする。 ・ よくできている時は、称賛をし、自信がもてるようにする。 ◎ 発表が終わるごとに称賛をする。 ・ 緊張しないように言葉掛けをする。 ・ 笑顔が発表ができるようにする。 ・ 友だちが発表するときは、黙って注目するように言葉掛けをする。	・ 鏡をよく見るように言葉掛けをする。 ・ 鏡で遊びそうな時は、言葉掛けをする。 ・ 前回の反省を確認するようにし、ワークシートに自分の目標を書き込むようにする。 ・ 話すことをT1が聞き出し、相談しながらまとめるようにする。 ・ 話す内容をワークシートに記入する。 ・ 練習する場所を指示し、何回練習するかを決めてから練習するようにする。 ・ 声が小さい時には、声掛けし、自信をもつてできるようにする ・ 自分の順番になるまで、待つように言葉掛けをする。 ・ 友だちの発表を、しっかりと聞くように言葉掛けをする。聞いているときは、称賛をする。
終末 10分	9 本日の活動を動画で振り返る。 ・ ノートに指摘された点や自分の反省を記入し、振り返る。 10 次回の授業を確認する。 11 終わりのあいさつをする。	・ 今回できなかったところを次回直して臨むことができるようにする。 ・ 今回できなかったところを次回直して臨むことができるようにする。	・ 今回できなかったところをT1と確認し、次回は直して臨むことができるようにする。